

障害等級と日常生活におけるコミュニケーション活動(場とレベル)の具体的状況例

3 級の欄の音声言語機能のレベルに該当すれば 3 級と判定する
 3 級の欄の項目が可能でも、4 級の欄のレベルであれば 4 級と判定する

※ それぞれの項目について、できる場合は (○) を、できない場合は (×) をご記入下さい。

障害等級	コミュニケーション のレベル コミュニケーションの場	理 解 面	○ ×	表 出 面	○ ×
3 級	本人 ↓↑ 家族 状況依存度が 高い	・ 本人や家族の名前がわかる		・ 本人、家族の名前が言える（通じる）	
		・ 住所がわかる		・ 住所が言える（通じる）	
		・ 日付、時間がわかる		・ 日付、時間、年齢が言える（通じる）	
		・ 部屋の中の物品を言われてわかる		・ 欲しい物品を要求できる（通じる）	
		・ 日常生活動作に関する指示がわかる ＜風呂に入って、S T に行って、薬を2錠飲んで・・・＞		・ 日常生活動作に関連する訴えができる（通じる）＜窓を開けて・・・＞ ・ 身体的訴えができる（通じる）	
4 級	本人 ↓↑ 家族 周 辺 状況依存度が 低い	・ 問診の質問が理解できる		・ 病歴、病状が説明できる（通じる）	
		・ 治療上の指示が理解できる ＜P T、薬の飲み方・・・＞		・ 治療上のことについて、質問ができる（通じる） ・ 家族に内容を伝えることができる	
		・ 訪問者の用件がわかる		・ 訪問者に用件を質問できる（通じる） ・ 用件を家族に伝えることができる	
		・ 電話での話がわかる		・ 電話で応答できる ・ 家族に内容を伝えることができる（いつ、誰、何、どこ） ・ 知り合いに電話をかけて用件を伝えることができる（通じる）	
		・ 尋ねた道順がわかる		・ 行先を言える（通じる） ・ 道順を尋ねることができる（通じる）	
		・ おつかいができる＜どこで、何を、いくつ、いくら、誰に、いつ＞		・ 買物をことばでできる（通じる）＜何をいくつ、いくら＞	
【特記事項】					

平成 年 月 日

医師氏名

印